大阪公立大学 Osaka Metropolitan University 学術情報リポジトリ

コロナ禍によるオンライン授業本格実施時期における大阪市立大学学生の学生生活に関する意識 ： 不安・悩みおよび大学に対する要望を中心に（報告論文）

メタデータ	言語: ja 出版者: 大阪公立大学 高等教育研究開発センター 公開日: 2024-04-26 キーワード (Ja): コロナ禍, 学生の不安と悩み, 大学への要望, 遠隔授業, 学年差, 保護者 キーワード (En): Covid-19 disaster, Anxiety and worries of students, Requests to universities, Difference in entrance year, Students and their parents 作成者: 西垣, 順子, 李, 頌雅, 外尾, 安由子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/0002000682

■ 報告論文

コロナ禍によるオンライン授業本格実施時期における大阪市立大学学生の学生生活に関する意識：不安・悩みおよび大学に対する要望を中心に

Report on the results of questionnaire surveys on the thoughts on university life among Osaka City University students during the time of online class under COVID-19 pandemic: Focusing on anxiety, worries, and requests for the university

西　垣　順　子
大阪公立大学高等教育研究開発センター

李　　頌　雅
大阪公立大学教育学修支援室

外　尾　安由子
大阪公立大学教育学修支援室

NISHIGAKI Junko
Osaka Metropolitan University

LEE Song-ya
Osaka Metropolitan University

HOKAO Ayuko
Osaka Metropolitan University

キーワード：コロナ禍、学生の不安と悩み、大学への要望、遠隔授業、学年差、保護者
Key words: Covid-19 disaster, Anxiety and worries of students, Requests to universities, Difference in entrance year, Students and their parents

抄録

大阪市立大学では、新型コロナウイルス感染症感染拡大を受けて遠隔授業が本格実施された2020年度末（2021年２月）と翌年度の９月に、学生と保護者に対するアンケート調査が学生課によって実施された（以下、２月調査と９月調査と呼ぶ）。本稿は、遠隔授業が本格実施されていた中での本学学生の学生生活への適応状況について具体的に知るため、９月調査結果の学年比較と学生-保護者比較、および２月調査での自由記述分析を行った。2020年４月に入学した学生（９月調査時は２年生）は他の学年と比して、不安や悩みを強く感じ続ける傾向があった。他方で2021年４月入学の学生も、学生同士の交流や課外活動ができないことには、悩みや不安を感じていた。また保護者は学生よりも、対面授業の再開を強く希望していた。学生の自由記述には感染に対する不安や、対面授業再開への不安が多く記述されていた。コロナ禍始まり以後の変化としては、課外活動ができないことと経済的状況の悪化が多く記述されていた。これらの結果を受けて、大学という場が青年期にある学生達に対して果たしている役割について考察した。

１．本稿の背景と観点

新型コロナウイルス感染症の拡大をうけて大阪市立大学（以下、本学）でも、2020年４月より遠隔形式を中心とした授業を行うなど、感染拡大防止に向けた取組みが行われてきた。そのような取組みが多少の変遷も伴いつつ長期化する中、当時の学生の学生生活に関

する意識等を詳しく理解することを目的に、学生課によるアンケート調査が実施された。このアンケートは学生とその保護者を対象としたもので、2020年度末にあたる2021年２月と、翌年度の後期授業開始前の2021年９月に行われた（以下、「２月調査」「９月調査」と呼ぶ）。その時点で大阪市立大学在学中の学部生および大学院生が対象で、９月調査は保護者に対しても実施された。

これらの調査の単純集計結果は学内の会議等で報告されたが、より踏み込んだ分析をOCUラーニングセンターにおいて実施してはどうかとの提案が大学からあった。OCUラーニングセンターは本学学生の自律的・能動的学修の支援を通じて、本学の学修成果の質保証に寄与することを目的として活動している組織である。分析結果はOCUラーニングセンターの今後の活動等にも生かせるであろうと考えられた。本稿は、この提案を受けて行われた分析結果を報告するものである。

2020年度が始まる前後から大阪市立大学では、学生の状況をできる限りデータに基づいて客観的に把握するために、教育推進課による複数回のアンケート調査や大学教育研究センターによる学生調査・教員調査が行われた。それらも貴重なデータであるが、本稿が報告するアンケート調査は学生課が実施したこともあり、学修に焦点を絞り込まず、学生生活全般を対象にしている。遠隔授業によって正課の教育は提供され続けたが、通常の学生生活は大きく損なわれた状況において、学生生活全般を対象に実施されたアンケートの結果分析からは、コロナ禍における学生の状況を知ることに加えて、大学という場が、青年期にある学生の学びと成長において果たす役割についても示唆を得られるのではないかと考える。

２．調査概要・分析の観点と方法

２.１．調査への協力者

２月調査への協力者は915名、９月調査への協力者は学生が1,394名であった。学年及び学部・研究科の内訳は表１の通りである。また、９月調査への保護者の協力者は1,366名であった。参考までに、調査実施当時の大阪市立大学在学生数は、2020年５月で8,306人、2021年５月で8,291人であり、２月調査で約11％、９月調査で約17％の回答率であった。

２.２．調査の実施方法と内容

９月調査と２月調査ともに学生課より、学生ポータル等を通じて周知・回答依頼を行った。調査はMicrosoft Formsを用いて実施された。

学生を対象とする９月調査の主な内容は次の10項目であった。また保護者調査の項目は、下記10項目から項目２と項目９、10を除外したものであった。

１．回答者の属性（所属学部、学年）
２．コロナ禍による悩みや不安、困っていること（後のページに掲載されている表２に示した14の悩み・不安に対して「非常にある」から「全くない」までの５件法で回答、自由記述も有、２月調査に同一項目有で比較可能）
３．各状況で望ましいと考える授業形態（緊急事態宣言発令期間、まん延防止等重点措置期間、発令・措置のない期間のそれぞれについて、望ましいと考える授業形態を、表５と表６に示した５つの選択肢から選択）、
４．望ましいと考える遠隔授業手法（遠隔授業時に望ましいと考える授業手法を、表７に示した４つの選択肢から選択）
５．遠隔授業の場合に望むこと（遠隔授業を行う場合に望むことについて、表９に示した選択肢から複数選択可で選択）

表１　アンケート調査協力者人数の者内訳

参加者		学年内訳											学部生の所属学部内訳								
調査時期	計	学部1	学部2	学部3	学部4	修士1	修士2	博士1	博士2	博士3	博士4	他	商	経	法	文	理	工	医	看	生科
２月調査	915	276	233	153	80	83	50	15	10	5	3	7	97	96	72	109	116	122	39	25	69
９月調査	1394	496	319	241	125	100	65	13	12	10	5	8	158	140	151	186	157	195	31	39	125

注：大学院生の人数が少ないため、所属内訳は学部生のみを記載した。

6．望ましいと思う課題等掲載期間（「項目５」で「課題や動画を一定期間掲載しておいてほしい」と答えた学生に対して、望ましいと思う掲載期間を選択形式で回答）
7．対面授業の場合に望むこと（対面授業を行う場合に望むことについて、後述の3.5.項に示した選択肢から複数選択可で選択）
8．対面授業における感染対策として「現在足りないと考える点」（自由記述）
9．学生なんでも相談窓口の認知度
10. その他の意見、要望（自由記述）

２月調査は学生のみを対象としており、次の14項目であった（本稿では２月調査の分析は自由記述のみを対象とするため、詳細は省略する）。

1．回答者の属性（所属学部、学年）
2．緊急事態宣言が出てからの生活の変化（「全くない」から「非常にある」の５件法で選択、自由記述）
3．現在不安に思うことや困っていること（５項目について５件法で選択、自由記述）
4．コロナ禍が１年間続いていることによる悩みや不安（表２、３に示した14項目について５件法で選択、自由記述）
5．感染対策としてやっていること（13項目から複数回答可で選択）
6．アルバイトの状況（アルバイトをしているか、業種、アルバイト収入の増減の程度、厚労省の給付金制度についての認知度）
7．今後、大学に求めたい支援（６項目から複数選択可で選択）
8．学生生活への支援で具体的に考えられるもの（自由記述）
9．「安心して学内で学べる施設・環境の支援」で具体的に考えられるもの（自由記述）
10.「授業・学修への支援」で具体的に考えられるもの（自由記述）
11.「課外活動への支援」で具体的に考えられるもの（自由記述）
12.「悩み相談の充実の支援」で具体的に考えられるもの（自由記述）
13.「学生何でも相談窓口」の認知度
14. その他の意見、要望（自由記述）

２.３．本稿におけるデータ分析の観点と方法

２月調査と９月調査の両方を合わせると、膨大な調査データになる。そこで本稿では、次の３点に焦点を絞り、分析を行うことにした。１つは、コロナ禍での遠隔授業完全実施環境における学生の不安や悩みに関する学年による違いと共通点を明らかにすることである。そのために、９月調査で得られた学生の回答を中心に、大阪市立大学の在学生の悩み、不安、要望、望ましいと思う授業形態や授業手法の学年間比較を行う。９月調査に回答した学生には、「高校時代に遠隔授業を経験してきた１年生」と「大学入学と同時に遠隔授業を余儀なくされた２年生」と「大学２年生以降で遠隔授業となった３年生以上の学生」の３つの立場の学生がすべて含まれており、学年による適応状況の違いを把握できるデータがそろっていた。また、約半年前に実施された２月調査にも、一部に同一の項目が含まれていたため、２年生以上の学生については、半年間の変化も含めた検討が可能である。

なお、学年差の分析に加えて学部別の分析を行うことも考慮したが、学部ごとの回答数にばらつきがあることや、回答した学生の学部別人数を学年ごとに集計すると人数が少なくなることから、本稿では学部比較は行わないことにした。

２つめは、授業形態やそれぞれの授業形態で配慮してほしいことに関する学生と保護者の意識の違いである。前節で述べたように、各調査の単純集計結果は大阪市立大学の全学会議で報告されており、その際に、９月調査における遠隔授業に係る質問に対する学生と保護者の回答傾向が異なっているらしいことは把握されていた。しかし統計的検定は実施されていないため、両者の回答傾向が本当に異なっていると言えるのかははっきりしていなかった。そこで本稿では、９月調査における両者の回答の統計的に有意な違いの有無を確認する。

なお、仮に有意な違いがあったとしても、学生と保護者の個別の関係性は、同居か別居かも含めて多様で、

両者の回答傾向の違いが何を意味するかは、本調査結果のみでは断定しづらい。しかし一般的に、保護者の期待や希望が、学生本人の考えなどと一致しないことは、学生にストレスを与えるものである。遠隔授業の継続など、学生生活に対する保護者の認識と学生の認識の相違は、コロナ禍における学生の精神的健康にもある程度の影響を与えていた可能性は考えられるだろう。

3つめは、遠隔授業本格開始年度末の2月調査時において、学生が求めていた支援等に関する分析である。2月調査は9月調査と異なり、学生が求めていることをより具体的に記述できる自由記述項目が多くあった。このうち本稿では、「緊急事態宣言後の生活の変化」、「緊急事態宣言後の悩み・不安」、「一年間のコロナ禍における悩み・不安」、「学生生活への支援で具体的に考えられるもの」、「安心して学内で学べる施設・環境の支援」、「授業・学修への支援」、「課外活動への支援」、「悩み相談の充実の支援」、「その他の意見・要望」に対する回答を、分析して取りまとめることにする。

上記の3つの分析観点で扱う項目への回答は、選択肢式で回答するものと自由記述式で回答するものがあった。選択肢式で回答するものについては、各種の統計的検定を行った。

自由記述式の回答は、回答の内容によってラベルを付け、ラベルの個数を集計してその傾向を示した（内容により、1つの記述回答に複数のラベルを付ける場合がある）。ラベルの付け方は次の通りであった。まず、回答に見られる共通した要素（例：感染、授業形態、人間関係、課外活動）をラベル名にし、各自由記述においてラベル名に相当する事柄が言及されていた場合はそのラベルを付けた。第2著者が一通りのラベル付けをした後、一部ラベル付けの判断が困難な自由記述について、第3著者と協議して決定した。

なお、自由記述式の回答については、集計されたラベルの個数が一部を除くとそれほど多くはなく、学年による違い等を比較分析するには不十分であった。他方で個別の記述には、卒業研究や病院実習などの学年や学部に独自の内容が含まれていた。そこで本稿での分析結果の記載に際しては、ラベルの個数は調査全体でカウントしたものを示すが、個別の記述を紹介する際には、当該記述をした学生の所属学部と学年をあわせて記載する。

3．分析結果と考察

3.1．コロナ禍による悩みや不安、困っていること（9月調査結果を中心に）

3.1.1．学年別の比較

9月調査内の問「コロナ禍における悩み・不安・困っていること」で取り上げた14の悩み・不安に対する学年別の回答の平均値と標準偏差（以下、SD）を表2に示した（後期博士課程は人数が少ないため除外）。それぞれの悩みや不安を感じる程度に学年による違いがあるかを検討するために、一元配置分散分析を実施した。なお、すべての項目において正規性は確認されなかったが、サンプルサイズが充分であることから、正規性の仮定に頑健とされる一元配置分散分析を用いることとした。中でも、等分散性の仮定を必要としないWelchの一元配置分散分析を採用した。その結果、「身体的健康の悩み・不安」及び「コロナに感染することへの不安」を除き学年による有意な主効果（学年による違い）があった。どの学年間に有意な違いがあるかを確認するために、Bonferroni法による多重比較を行った結果を表2にアルファベットを付記することで示した。学年別の回答者数のばらつきによる影響もあることを留意しつつ、次のように解釈できると思われる。

2020年度新入生である2年生がほとんどの項目で悩みや不安を高く感じており、遠隔授業本格導入と同時期の大学入学という、新型コロナウイルス感染拡大という事態の影響を大きく受けた学年であることが伺える。対照的に2021年度新入生である1年生は、コロナ禍での生活にある程度順応した後に入学しているためか、多重比較の結果で悩みや不安を感じる程度が低いグループに分類される項目が8項目と多かった。ただしクラブ・サークル、友人関係に係る悩みや不安は2年生と同等に高く、交流機会が激減したコロナ禍で、一から対人関係を形成することの難しさを表していると考えられる。他方で3年生以上の学生は、コロナ禍以前に大学での友人関係などを形成できていたためか、2年生に比べると不安・悩みの評定は高くない。他方で1年生と比べると、アルバイト減収などの経済

的悩みやクラブ・サークル活動に関する不安・悩みが特に４年生で高かった。「コロナ禍以前の学生生活」を経験していない１年生と異なり、学生生活が急激に変化したことの影響が伺えるように思われる。

３.１.２.　２月調査との比較

前項と同様の14の悩み・不安の程度の２月調査と９月調査での平均値と*SD*を表３に示し、両調査で平均値に差があるかを確かめるために*t*検定を行った。後期からの対面授業再開が決定された時期であるためか、対面授業に関する悩み・不安は有意に高くなっていた

表2　9月調査結果における学年別の悩み・不安の程度（分散分析・多重比較結果を含む）

	遠隔授業に関する悩み・不安 ($F_{(6,293)} = 3.14, p < .01$)			対面授業に関する悩み・不安 ($F_{(6,286)} = 6.56, p < .001$)			実験実習に関する悩み・不安 ($F_{(6,292)} = 5.99, p < .001$)		
学年	*n*	平均値	*SD*	*n*	平均値	*SD*	*n*	平均値	*SD*
1	496	2.55	1.29	496	3.44	1.26 b	496	2.77	1.29
2	319	2.63	1.30 a	319	3.79	1.17 a	319	2.97	1.41 a
3	241	2.41	1.24	241	3.62	1.26	241	2.72	1.36
4	125	2.29	1.22	125	3.36	1.42 b	125	2.52	1.34 b
M1	100	2.36	1.20	100	3.42	1.37	100	2.44	1.29 b
M2	65	2.09	1.09 b	65	3.2	1.39 b	65	2.38	1.25 b
	精神的な悩み・不安 ($F_{(6,289)} = 2.80, p < .05$)			身体的健康の悩み・不安 ($F_{(6,290)} = 1.62$, *n.s.*)			コロナに感染することへの不安 ($F_{(6,292)} = 1.35$, *n.s.*)		
学年	*n*	平均値	*SD*	*n*	平均値	*SD*	*n*	平均値	*SD*
1	496	2.65	1.29 b	496	2.41	1.25	496	3.65	1.24
2	319	2.97	1.30 a	319	2.5	1.27	319	3.77	1.24
3	241	2.95	1.33	241	2.56	1.29	241	3.83	1.12
4	125	2.9	1.29	125	2.72	1.24	125	3.87	1.24
M1	100	2.66	1.30	100	2.56	1.32	100	3.9	1.08
M2	65	2.83	1.35	65	2.57	1.26	65	3.63	1.18
	授業料や学費の経済的悩み・不安 ($F_{(6,288)} = 4.07, p < .001$)			食費や住居費などの経済的悩み・不安 ($F_{(6,287)} = 3.94, p < .001$)			アルバイト代減収の悩み・不安 ($F_{(6,287)} = 4.00, p < .001$)		
学年	*n*	平均値	*SD*	*n*	平均値	*SD*	*n*	平均値	*SD*
1	496	2.4	1.27 b	496	2.18	1.26 b	496	2.39	1.32 b
2	319	2.69	1.31 a	319	2.31	1.31	319	2.62	1.43
3	241	2.62	1.31	241	2.37	1.26	241	2.72	1.41
4	125	2.81	1.40 b	125	2.62	1.38 a	125	2.98	1.47 a
M1	100	2.89	1.35 b	100	2.6	1.39	100	2.67	1.48
M2	65	2.66	1.25	65	2.52	1.32	65	2.38	1.42
	クラブ・サークルに関する悩み・不安 ($F_{(6,302)} = 47.94, p < .001$)			友人関係の悩み・不安 ($F_{(6,292)} = 15.45, p < .001$)			家族に関する悩み・不安 ($F_{(6,285)} = 5.37, p < .001$)		
学年	*n*	平均値	*SD*	*n*	平均値	*SD*	*n*	平均値	*SD*
1	496	3.08	1.38 ab	496	2.96	1.38 a	496	1.9	1.07 b
2	319	3.22	1.44 a	319	3.22	1.38 a	319	2.17	1.24 a
3	241	3.02	1.53 ab	241	2.63	1.30 b	241	2.09	1.24
4	125	2.71	1.54 b	125	2.8	1.33 ab	125	2.48	1.29 a
M1	100	1.68	1.09 c	100	2.09	1.22 c	100	2.1	1.21
M2	65	1.83	1.19 c	65	2.23	1.31 bc	65	2.25	1.29
	進学に関する悩み・不安 ($F_{(6,289)} = 12.26, p < .001$)			就職に関する悩み・不安 ($F_{(6,285)} = 42.67, p < .001$)					
学年	*n*	平均値	*SD*	*n*	平均値	*SD*			
1	496	2.39	1.28 c	496	2.92	1.35 c			
2	319	3.05	1.40 a	319	3.92	1.23 a			
3	241	2.73	1.45 ab	241	4.1	1.10 a			
4	125	2.23	1.38 c	125	2.85	1.42 c			
M1	100	2.12	1.28 c	100	3.41	1.51 b			
M2	65	2.31	1.38 bc	65	2.49	1.52 d			

注：表中のアルファベットは多重比較の結果を示す。異なるアルファベットが付いている平均値間には有意差があることを、同じアルファベットが付いている平均値間には有意差がないことを示している。例えば、ab等と２文字並んでいる場合は、当該の学年の平均値がcよりは高いが、aとbが付いている学年とは有意差がないことを示す。

が、他はほとんどが有意に低くなっていた。また、「悩み、不安」の程度とは別の内容であるが、学内の「学生なんでも相談窓口」の認知度も高くなっており（平均値（SD）が3.3（0.6）から3.5（0.6）に増加、$t = -5.16^{***}$）、学生が困ったことがあったときに相談できる窓口の存在を知るようになったことは、彼女・彼らの環境適応にはポジティブに作用していたのではないかと思われる。

表3　コロナ禍による悩み・不安の調査間比較（t検定結果を含む）

	調査時期	平均値	*SD*	*t* *df* = 2307
2月調査より減少				
遠隔授業に関する悩み・不安	2月	3.09	1.37	10.78 ***
	9月	2.48	1.27	
精神的な悩み・不安	2月	3.32	1.27	9.24 ***
	9月	2.81	1.31	
身体的健康の悩み・不安	2月	3.01	1.28	9.08 ***
	9月	2.52	1.27	
授業料や学費の経済的悩み・不安	2月	2.98	1.40	6.32 ***
	9月	2.61	1.32	
食費や住居費などの経済的悩み・不安	2月	2.86	1.42	8.74 ***
	9月	2.35	1.31	
アルバイト代減収の悩み・不安	2月	3.09	1.52	8.33 ***
	9月	2.57	1.41	
クラブ・サークルに関する悩み・不安	2月	3.11	1.51	3.98 ***
	9月	2.86	1.49	
友人関係の悩み・不安	2月	3.09	1.39	4.45 ***
	9月	2.83	1.39	
家族に関する悩み・不安	2月	2.54	1.33	8.24 ***
	9月	2.09	1.21	
進学に関する悩み・不安	2月	2.67	1.40	1.93 †
	9月	2.56	1.39	
就職に関する悩み・不安	2月	3.61	1.45	4.06 ***
	9月	3.36	1.43	
2月調査より増加				
対面授業に関する悩み・不安	2月	3.33	1.37	−3.09 ***
	9月	3.50	1.29	
変化なし				
実験実習に関する悩み・不安	2月	2.80	1.40	1.39 *n.s.*
	9月	2.72	1.35	
コロナに感染することへの不安	2月	3.70	1.19	−0.88 *n.s.*
	9月	3.75	1.20	

※度数：2月調査915、9月調査1394
※1～5で回答（中点3）、値が高いほど悩み・不安等が高いことを表すよう得点化
$^{***}p < .001$　$^{\dagger}p < .10$

3.1.3. 2020年度新入生における2月調査との比較

9月調査時点で2年生（2020年度新入生）の回答について、2月調査と比較したものを表4に示し、前項と同様のt検定を行った。2月調査から7か月後の9月調査では、回答者全体では平均値が低くなっていた悩み・不安の程度が、2年生では増加しているもの（進学・就職）や低下が見られないもの（経済的・アルバイト代減収・家族）が複数あり、この学年にとってコロナ禍環境への順応が困難である様子が伺えた。また、悩み・不安は高いにも関わらず、「学生何でも相談窓口」の認知度は増加しておらず（2月調査、9月調査でそれぞれ平均（*SD*）が、1.9（0.6）と2.0（0.6），$t = -1.56$, *n.s.*）、悩みを解決するために相談に行く先についての情報も、十分には行き届いていないことが示唆された。

表4　2020年度新入生の悩み・不安の調査間比較

	調査時期	平均値	*SD*	*t* *df* = 593
2月調査より減少				
遠隔授業に関する悩み・不安	2月	3.50	1.26	8.32 ***
	9月	2.63	1.30	
精神的な悩み・不安	2月	3.28	1.26	2.94 ***
	9月	2.97	1.30	
身体的健康の悩み・不安	2月	2.91	1.27	3.91 ***
	9月	2.50	1.27	
食費や住居費などの経済的悩み・不安	2月	2.61	1.31	2.80 ***
	9月	2.31	1.31	
クラブ・サークルに関する悩み・不安	2月	3.46	1.31	2.16 *
	9月	3.22	1.44	
友人関係の悩み・不安	2月	3.45	1.33	2.12 *
	9月	3.22	1.38	
2月調査より増加				
進学に関する悩み・不安	2月	2.69	1.29	−3.23 ***
	9月	3.05	1.40	
就職に関する悩み・不安	2月	3.25	1.40	−6.15 ***
	9月	3.92	1.23	
変化なし				
対面授業に関する悩み・不安	2月	3.68	1.24	−1.03 n.s.
	9月	3.79	1.17	
実験実習に関する悩み・不安	2月	3.01	1.30	0.32 n.s.
	9月	2.97	1.41	
コロナに感染することへの不安	2月	3.71	1.19	−0.58 n.s.
	9月	3.77	1.24	
授業料や学費の経済的悩み・不安	2月	2.72	1.28	0.23 n.s.
	9月	2.69	1.31	
アルバイト代減収の悩み・不安	2月	2.77	1.42	1.28 n.s.
	9月	2.62	1.43	
家族に関する悩み・不安	2月	2.30	1.22	1.33 n.s.
	9月	2.17	1.24	

※度数：2月調査276、9月調査319
※1～5で回答（中点3）、値が高いほど悩み・不安等が高いことを表すよう得点化
$^{***}p < .001$　$^{*}p < .05$

３.１.４. 悩み・不安・困っていることに関する自由記述回答

【全体的な結果】163件の回答があった。ラベル付けした結果を章末の付表１に示した。全体的には、感染への不安に関するものが最も多く、その次に授業形態、人との交流やコミュニケーションの機会の少なさ、メンタルの不調などに関するものも多く見られた。

感染への不安に関するものには、「ワクチンを打ったからといって、感染しないわけではないのに対面授業を再開していいのか不安である」（工学部・１年）などが言及された。「感染者数が高い水準で出続けており、感染の可能性が拭えない中で対面授業を強制的に受ける必要があるのはとても不安」（工学部・３年）といった声があった。対面授業、学内での飲食、通学などの場面での感染リスクに対して不安を感じた回答がいくつかあった。他に、「身体的な事情でワクチンを接種できず対面授業への不安がぬぐえない」（文学研究科・博士１年）があった。アルバイトの減収、もしくはアルバイト自体できなくなったことで生活費などに関する悩みが生じるケースも見られた。

授業形態に関する不安には、感染への不安に関するものが見られた。例えば、「オンラインを希望しているのにも関わらず、対面授業を強制してくる。（中略）健康を優先したいがその意見が通らないところ」（経済学部・３年）のような声があった。「遠隔授業中の機械トラブルが不安」（経済学部・１年）、「ネット授業は予想外の調整時間が長く、授業効果が薄まる」（商学部・１年）など、遠隔授業で授業内容がしっかり身に付くかに対する不安がうかがえる。また、「対面授業と遠隔授業が、同日に行われるのは回避してもらいたい。重いパソコンを持ち歩くのはかなりきつい」（都市経営研究科・修士１年）のような、対面授業と遠隔授業が共存する場合の悩みも見られた。

人との交流やコミュニケーションの機会の少なさに関する不安には、「対面授業がほとんどなかったり、サークル活動もほとんどなかったので友人を作る機会がなかったので知り合いが少ない」（経済学部・２年）、「対面授業などでのグループディスカッションなどによる生徒間の交流が全くなく、ヒトとのつながりが生まれることが無いのは残念に感じています」（生活科学研究科・修士１年）などの声があった。感染対策のため対面での活動、学生同士の交流機会が減り、友人を作ることの困難さに関する悩みが見られた。

メンタルの不調などに関する不安には、希死念慮を記述しているような深刻なものもあった。「入学時に思い描いていた大学４回生と、現状との差から、振り返ると心がしんどくなってしまうことがあります」（理学部・４年）、「孤独感」（法学部・１年）「対面主体の授業形態に戻っても健康だった時の自分には戻れない。生まれてこなければよかった」（生活科学部・４年）などの回答があった。大学での交流機会がなくなったことで生じた孤独感や、理想の大学生活と現状の差が精神的健康に支障をきたしていることが考えられる。

【学年に特有の記述】ここで、学年特有の内容と思われる悩みの記述を取り上げる。まず、学部２年生に特有と考えられる回答には「今までの遠隔授業の生活スタイルから対面の生活スタイルにシフトするのが難しい」（工学部・２年）といった遠隔授業に慣れた状態での対面授業再開への不安に関する記述がいくつも見られた。また、「ほとんどの先生方の顔もわからないため、今後ゼミ選びの際にどの様な先生かが分からず、不安である」（経済学部・２年）のような、３年次以後のゼミ選びへの不安な声もあった。

次に、学部３年生以上に特有の回答として、「実習で病院に行くことに対して自分が罹患する不安と共に、発生源になってしまう不安がある」（医学部看護学科・３年）のような実習での感染リスクに関する言及が見られた。また、卒業論文の執筆に取り組んでいる学部４年生の回答には、「卒業論文指導の機会が減り、完成させられるかどうか不安」（生活科学部・４年）のようなものがあった。

【２月調査との比較】２月調査にも同様の項目があり、178件の回答があった。ラベル付けした結果を付表２に示した。最も多かった回答は就職活動への不安であり、計33件の回答に見られ、全ラベル数の19％を占めた点が、９月調査と異なっていた。就職活動に関する不安には「採用人数減らしてるのが怖すぎる」（経済学部・３年）といった回答があった。次いで多かったのは、授業形式、感染、課外活動、経済的な不安（アルバイトを含む）、学業、人との交流・コミュニケーショ

ンへの不安に関する回答で、9月調査とある程度類似していた。就職への不安については、コロナ禍初年度と2年度では学生が得ていた情報の量も異なっていたと考えられ、9月調査では不安として言及される割合が減っていたのではないかと推測する。

3.2. 各状況で望ましいと考える授業形態（9月調査結果）

緊急事態宣言発令期間やまん延防止等重点措置期間などの各状況において、学生が望ましいと考えていた授業形態の、学年別の回答分布を表5に示した。回答の分布状況に学年による違いがあるかを確認するために、カイ二乗検定により比較を行ったところ、緊急事態宣言発令期間においてのみ有意な連関が見られた（$\chi^2(24)= 38.38, p < .05$）。どの回答が有意に多い（少ない）かを見るために残差分析を行ったところ、1年生で「すべて遠隔」が多く、「遠隔主体の混合」が少ないという結果であった（表5の調整済み残差の数値の右肩に＊がついている部分）。1年生は既に遠隔授業に順応しており、授業形態の混合による負担の方を忌避していることの表れと考えられる。

同様の質問を保護者調査でも実施していたことから、

表5　各状況で望ましいと考える授業形態の学年別回答分布

学年		緊急事態宣言発令期間（$\chi^2(24) = 38.38, p < .05$）					まん延防止等重点措置期間（$\chi^2(24) = 29.50$, *n.s.*）					特段の発令、措置のない期間（$\chi^2(24) = 31.00$, *n.s.*）				
		すべて遠隔	遠隔主体の混合	対面と遠隔が半々の混合	対面主体の混合	すべて対面	すべて遠隔	遠隔主体の混合	対面と遠隔が半々の混合	対面主体の混合	すべて対面	すべて遠隔	遠隔主体の混合	対面と遠隔が半々の混合	対面主体の混合	すべて対面
1	*n*	223	131	69	52	21	113	130	108	100	45	59	76	97	166	98
	調整済み残差	2.4*	−2.7*	−0.3	0.7	−0.1	0.1	−0.3	−1.0	1.2	0.1	1.6	−2.2	−0.9	1.7	−0.1
2	*n*	121	109	50	23	16	71	82	88	47	31	29	56	77	97	60
	調整済み残差	−1.2	1.5	0.8	−1.7	0.7	−0.2	−0.5	2.1	−1.9	0.5	−0.7	−0.4	1.7	−0.1	−0.6
3	*n*	92	86	29	22	12	49	64	55	51	22	18	54	46	70	53
	調整済み残差	−0.9	1.8	−1.1	−0.4	0.6	−0.9	−0.1	−0.2	1.2	0.1	−1.5	1.8	−0.7	−0.6	0.9
4	*n*	49	36	14	21	5	32	33	22	24	14	10	29	26	30	30
	調整済み残差	−0.4	−0.5	−1.1	2.8*	−0.2	0.8	−0.1	−1.6	0.2	0.9	−0.8	1.5	0.0	−1.7	1.2
M1	*n*	41	33	17	8	1	26	27	29	15	3	16	19	17	31	17
	調整済み残差	0.1	0.5	0.8	−0.6	−1.7	0.8	0.1	1.4	−0.9	−2.2	2.0	0.2	−1.0	0.1	−0.8
M2	*n*	27	23	7	7	1	16	25	10	12	2	7	14	18	20	6
	調整済み残差	0.1	0.8	−0.8	0.3	−1.1	0.4	2.2	−1.5	0.0	−1.7	0.2	0.7	1.4	0.0	−2.2

※学年別の合計*n*：1回生496、2回生319、3回生241、4回生125、M1回生100、M2回生65　　$^*p < .05$

表6　望ましいと考える授業形態の学生・保護者の回答分布

		緊急事態宣言発令期間（$\chi^2(4) = 348.56, p < .001$）					まん延防止等重点措置期間（$\chi^2(4) = 424.86, p < .001$）					特段の発令、措置のない期間（$\chi^2(24) = 660.60, p < .001$）				
		すべて遠隔	遠隔主体の混合	対面と遠隔が半々の混合	対面主体の混合	すべて対面	すべて遠隔	遠隔主体の混合	対面と遠隔が半々の混合	対面主体の混合	すべて対面	すべて遠隔	遠隔主体の混合	対面と遠隔が半々の混合	対面主体の混合	すべて対面
学生	*n*	568	430	200	136	60	315	373	324	257	125	142	256	290	428	278
	調整済み残差	15.8*	1.9	−4.6*	−11.6*	−6.4*	14.0*	8.1*	3.0*	−11.4*	−11.1*	9.7*	12.1*	12.2*	2.3*	−22.9*
保護者	*n*	190	377	287	366	146	60	195	253	519	339	20	53	70	365	858
	調整済み残差	−15.8*	−1.9	4.6*	11.6*	6.4*	−14.0*	−8.1*	−3.0*	11.4*	11.1*	−9.7*	−12.1*	−12.2*	−2.3*	22.9*

※学生$n = 1394$, 保護者$n = 1366$　　$^*p < .05$

学生と保護者の回答分布を表６に示した。学生と保護者で、回答の全体的な分布に違いがあるかを確かめるために、カイ二乗検定を行ったところ、全期間で有意な連関が見られた。表６のどの部分に回答の偏りがあるかを知るために、残差分析を行ったところ、保護者の対面希望や対面主体希望が学生より多く、学生の遠隔希望や遠隔主体の希望が保護者よりも多かった（表６の調整済残差の数値の右肩に＊がついている部分）。

３.３．望ましいと考える遠隔授業手法（９月調査）

遠隔授業時にどの手法の授業を望ましいと考えるかについての、学年別の回答分布を表７に示した。学年による回答分布の違いがあるかを確かめるために、カイ二乗検定を行ったところ有意な連関が見られた（$\chi^2(18) = 340.02, p < .001$）。学年による回答の偏りがどの部分にあるのかを知るために、残差分析を行ったところ、１・２年生の「双方向」を望む人数が少ないという結果が示された。また、２年生で「基本」の希望が比較的高いという特徴が見られた。院生の「双方向」希望の高さも示されたが、これは院生においてはゼミ形式の授業が主体であるためと考えられる。

表７　望ましいと考える遠隔授業手法の学年別回答分布

学年		基本	発展	双方向	なし	合計
1	*n*	55	368	41	27	491
	調整済み残差	−1.3	6.2 *	−7.0 *	0.6	
2	*n*	55	227	19	11	312
	調整済み残差	3.0 *	3.6 *	−6.2 *	−1.4	
3	*n*	34	156	35	12	237
	調整済み残差	0.8	0.6	−1.4	0.0	
4	*n*	18	72	26	7	123
	調整済み残差	0.7	−1.4	0.9	0.4	
M1	*n*	6	32	58	4	100
	調整済み残差	−2.1 *	−7.0 *	10.8 *	−0.5	
M2	*n*	4	15	43	2	64
	調整済み残差	−1.6	−7.0 *	10.5 *	−0.7	

注：「基本」は動画なしオンデマンド、「発展」は動画つきのオンデマンド、「双方向」はZoom等による同時双方向授業を示す
*$p < .05$

保護者にも同様の質問をしていたため、学生の回答と保護者の回答の分布を表８に示した。学生と保護者で回答分布に違いがあるかを知るために、カイ二乗検定を行ったところ有意な連関が見られた（$\chi^2(3) = 593.35, p < .001$）。どの部分に回答の偏りがあるかを知るために、残差分析を行ったところ、発展型を望む人が多数を占めた学生と異なり、保護者では双方向型の希望が多く、６割を超えた。

表８　学生と保護者が望ましいと考える遠隔授業手法の回答分布

		基本	発展	双方向	なし	合計
学生	*n*	175	883	248	69	1375
	調整済み残差	5.0 *	20.5 *	−23.8 *	−0.2	
保護者	*n*	93	335	840	69	1337
	調整済み残差	−5.0 *	−20.5 *	23.8 *	0.2	

*$p < .05$

３.４．遠隔授業の場合に望むことと希望する課題掲載期間（９月調査）

遠隔授業を行う場合に望むことを複数選択可で選択してもらった。それぞれの項目を選択した人数とその割合を表９に示した。それぞれの項目を選択した人の割合が学年によって有意に異なるかを知るために、カイ二乗検定により学年別の比較を行ったところ、すべての項目の選択有無において有意な連関が見られた。どの部分に回答の偏りがあるかを知るために残差分析を行ったところ、「動画の質向上」「課題の量軽減」について２年生の要望が高いことが示された。「課題の量軽減」の選択は２年生だけでなく３年生も高く、コロナ禍以前の課題量との差を踏まえての要望ではないかと考えられる。なお、４年生の結果には履修する授業が少ないことが影響している可能性がある。

同様の項目を保護者にも尋ねていたので、学生の回答との比較を表10に示した。カイ二乗検定により、学生と保護者の回答状況に違いがあるかを確認したところ、「課題の量軽減」「機器トラブルへの対応」「要望なし」の選択有無において有意な連関が見られた。具体的にどのような連関（回答の偏り）があるかを知るために残差分析を実施した結果、「課題の量軽減」を望む保護者は学生より少なく、「機器トラブルへの対応」を望む保護者は学生より多かった。

３.５．対面授業の場合に望むこと

対面授業を行う場合に望むこととして、「教職員のワクチン接種」「感染防止対策」「学生のワクチン接種」「遠隔での受講を選択」「大人数講義はやめてほしい」「特

表9　遠隔授業で望むこととして各項目を選択した人数（学年別）

		動画の質向上	課題の量軽減	機器トラブルへの対応	掲載期間延長	なし
		($\chi^2(6) = 26.26^{***}$)	($\chi^2(6) = 98.28^{***}$)	($\chi^2(6) = 13.64^{*}$)	($\chi^2(6) = 30.18^{***}$)	($\chi^2(6) = 108.08^{***}$)
1	*n*	108	242	129	325	39
	選択率	21.77%	48.79%	26.01%	65.52%	7.86%
	調整済み残差	−0.6	0.8	2.6 *	2.1 *	−4.2 *
2	*n*	101	197	75	211	23
	選択率	31.66%	61.76%	23.51%	66.14%	7.21%
	調整済み残差	4.3 *	5.9 *	0.7	1.8	−3.5 *
3	*n*	56	129	39	154	25
	選択率	23.24%	53.53%	16.18%	63.90%	10.37%
	調整済み残差	0.2	2.1 *	−2.4 *	0.7	−1.3
4	*n*	22	47	20	75	31
	選択率	17.60%	37.60%	16.00%	60.00%	24.80%
	調整済み残差	−1.4	−2.3 *	−1.7	−0.5	4.2 *
M1	*n*	12	25	24	50	18
	選択率	12.00%	25.00%	24.00%	50.00%	18.00%
	調整済み残差	−2.7 *	−4.6 *	0.5	−2.5 *	1.6
M2	*n*	11	9	11	29	26
	選択率	16.92%	13.85%	16.92%	44.62%	40.00%
	調整済み残差	−1.1	−5.5 *	−1.0	−2.9 *	6.7 *

$^{*}p < .05$

表10　学生と保護者が「遠隔授業で望むこと」として各項目を選択した人数

		動画の質向上	課題の量軽減	機器トラブルへの対応	掲載期間延長	なし
		($\chi^2(1) = 1.12$ *n.s.*	($\chi^2(1) = 196.19^{***}$)	($\chi^2(1) = 67.54^{***}$)	($\chi^2(1) = .00$ *n.s.*)	($\chi^2(1) = 8.11^{**}$)
学生	*n*	317	659	308	863	180
	選択率	22.74%	47.27%	22.09%	61.91%	12.91%
	調整済み残差	−1.1	14.0 *	−8.2 *	0.1	−2.8 *
保護者	*n*	334	299	496	844	229
	選択率	24.45%	21.89%	36.31%	61.79%	16.76%
	調整済み残差	1.1	−14.0 *	8.2 *	−0.1	2.8 *

$^{*}p < .05$

にない」から、複数選択可で選択してもらった。各項目を選択した学年別の人数を表11に示した。各項目を選択した人の割合が学年ごとに異なるかを確認するためにカイ二乗検定を行った（結果は表11上部に記載した）。有意な違いが確認された4項目（教職員ワクチン、感染防止対策、学生ワクチン、大人数講義回避）については残差分析も行った。その結果、1年生ではこれらを望む人が少なかった。入学前の2020年度に大学は遠隔授業を実施していたが、一般的に高校では対面授業が再開されていたため、対面授業での感染リスクに対する不安が低かった可能性がある。

保護者にも同様の質問をしており、学生と保護者で各項目を選択した人数等を表12に示した。保護者と学生で各項目を選択した人の割合に違いがあるかを確認するために、カイ二乗検定を行い、有意な連関が確認された項目については残差分析を行った。対面授業実施に対する積極策と呼べるような「教職員・学生のワクチン接種推進」及び「感染防止対策」を選択した保護者が多く、反対に「遠隔受講選択」及び「大人数講義の回避」を選択した学生が多かった。保護者の対面志向が伺える結果であった。

「感染防止対策」を要望した人に対して、「現在足りていないこと」を自由記述してもらったところ、181件の回答があった。概略を付表3に示した。消毒に関するものが最も多く（28件）、その次に間隔、教室の人数制限、換気、飲食に関するものが見られた。消毒は、手指だけではなく、教室の座席など共用の場の消毒の徹底を希望する記述が複数あり、消毒の作業を徹

表11　対面授業での要望を選択した人数

		教職員ワクチン	感染防止対策	学生ワクチン	遠隔選択可	大人数講義回避	特にない
	$\chi^2(6)$	17.36**	20.29**	18.48**	7.78	19.58**	6.78
1	n	62	91	83	311	145	87
	選択率	12.50%	18.35%	16.73%	62.70%	29.23%	17.54%
	調整済み残差	−2.9 *	−3.9 *	−2.6 *	0.2	−3.8 *	0.7
2	n	52	83	57	205	127	57
	選択率	16.30%	26.02%	17.87%	64.26%	39.81%	17.87%
	調整済み残差	−0.1	0.8	−1.4	0.8	1.7	−0.6
3	n	39	64	58	144	100	37
	選択率	16.18%	26.56%	24.07%	59.75%	41.49%	15.35%
	調整済み残差	−0.1	0.9	1.5	−0.9	2.0 *	−0.6
4	n	23	31	30	77	50	24
	選択率	18.40%	24.80%	24.00%	61.60%	40.00%	19.20%
	調整済み残差	0.6	0.1	1.0	−0.2	1.0	0.8
M1	n	25	34	28	66	40	9
	選択率	25.00%	34.00%	28.00%	66.00%	40.00%	9.00%
	調整済み残差	2.4 *	2.3 *	1.9	0.8	0.9	−2.1 *
M2	n	15	22	14	43	26	8
	選択率	23.08%	33.85%	21.54%	66.15%	40.00%	12.31%
	調整済み残差	1.5	1.8	0.2	0.7	0.7	−0.9

$^*p < .05$

表12　対面授業での要望を選択した人数

		教職員ワクチン	感染防止対策	学生ワクチン	遠隔選択可	大人数講義回避	特にない
	$\chi^2(1)$	183.23***	127.22***	186.21***	195.56***	23.39***	3.36
学生	n	229	340	287	868	500	231
	選択率	16.43%	24.39%	20.59%	62.27%	35.87%	16.57%
	調整済み残差	−13.5 *	−11.3 *	−13.6 *	14.0 *	4.8 *	1.8
保護者	n	540	612	614	487	373	192
	選択率	39.53%	44.80%	44.95%	35.65%	27.31%	14.06%
	調整済み残差	13.5 *	11.3 *	13.6 *	−14.0 *	−4.8 *	−1.8

$^*p < .05$

底するために、学生への注意喚起や業者への依頼などの対策が挙げられていた。

「間隔」について言及した回答（21件）には、対面授業では教室での座席の間隔が十分に取れないことへの不安や、マスクを着用したとはいえ、コミュニケーションをとることへの不安を感じた声があった。教室などでの人数制限について言及した回答（20件）には、大人数の講義で多数の学生が密集することへの不安がうかがえ、人数制限、仕切りの設置、対面と遠隔のハイブリッド形式の授業などの対策が求められていた。換気については、教室や研究室の換気が十分になされていないという指摘、窓を開けて換気することを求める記述や、教員の対応を求める声もあった。

その他、飲食の環境での密集などについては、特に昼食の時間帯の混雑を危惧する記述があり、飲食スペースの確保、食堂でのマスクの着用、屋外の飲食スペースの設置などの対策が求められていた。授業形態については、同日で対面と遠隔の授業を受講する場合、様々な不便を感じ、授業形態の統一を要望する声があった。また、社会人学生の場合、遠隔授業のほうが受講しやすいという声があった。マスクの着用については、不織布マスクの着用を要求する声がいくつか見られた。また、正しくマスク着用すること、教員にもマスク着用を徹底することが言及された。

3.6. 必要とされていた学生支援（2月調査結果）

2020年度末に実施された２月調査の自由記述で、学生への各種支援としてどのようなことが求められたのかを分析していく。

【緊急事態宣言後の生活の変化】「2021年１月に２度

目の緊急事態宣言が出て以降に感じた生活の変化」に対する501件の回答についてまとめる（付表４を参照）。最も多かった回答は課外活動に関する変化（173件）であり、全ラベル数の35％を占めている。具体的には、「課外活動が全て禁止になり」（理学部・１年）、「部活動の時間短縮」（文学部・１年）、「課外活動のオンライン化」（工学部・３年）などがある。その次に外出・行動制限、授業、アルバイト・経済的なこと、人との交流・コミュニケーションの変化に関する回答が多く見られた。

【緊急事態宣言後の悩み・不安】「緊急事態宣言が出て以降、不安に思う事や、困っている事」に対する370件の回答についてまとめる（付表５を参照）。最も多かった回答は経済的な不安（アルバイトの減収を含む）であり、計84件の回答に見られ、全ラベル数の23％を占めている。経済的な不安に関しては「アルバイトの収入が見込めなくなった」（商学部・１年）といった回答がいくつもあった。その次に感染への不安、授業形式、課外活動、人との交流・コミュニケーション、就職活動への不安に関する回答が多く見られた。

【学生生活への支援で具体的に考えられるもの】「学生生活への支援」についての回答（161件）を見ると、最も多かったのは経済的支援に関するものであり、計89件の回答に見られており、全ラベル数の55％を占めている。具体的には、「現金給付」（経済学部・３年）や「授業料の減免」（文学研究科・博士２年）などが求められている。その次に食事・食料品の提供、遠隔授業への希望、学生同士で交流する場の提供、情報提供、課外活動の再開に関する支援を求める意見が多く見られた（付表６を参照）。

【安心して学内で学べる施設・環境の支援】「安心して学内で学べる施設・環境の支援」についての回答（125件）を見ると（付表７）、感染対策を求める回答が最も多かった。計58件の回答に見られており、全ラベル数の46％を占めている。中でも十分な感染対策をした上で対面授業の実施を希望する声がいくつかあった。具体的には、「アルコールを置いている数を増やす。マスク着用を徹底（個人に配慮しつつ）」（理学部・１年）、「常に空気の換気されている環境の維持」（都市経営研究科・修士１年）などの意見があった。その次に、学修スペースの確保を希望する声も多かった。特に、「条件を満たした場合複数名で利用できるグループ学習室の提供」（理学部・３年）、「現在使用が停止されていう（原文ママ）学情ラーニングコモンズ等についても、パーテーションを設置する等して、グループワークができる環境を確保してほしい」（文学研究科・修士１年）のようなグループ学修ができる場所を求める回答がいくつかあった。他に、遠隔授業の提供、対面授業の提供、飲食スペースの確保を希望する回答も見られた。

【授業・学修への支援】「授業・学修への支援」についての回答（119件）では、経済的支援に関するものが多かった（18件、全ラベル数の15％）。具体的には「授業料減免」（商学部・３年）、「タブレット端末やペンタブレットの支給」（理学研究科・修士２年）などの意見があった。その次に遠隔授業を希望する声や、遠隔授業の改善点についての意見があった。また、対面授業を希望する声や学修支援を求める声もあった。学生のニーズに合わせて選べる授業形態も求められている（付表８を参照）。

【課外活動への支援】「課外活動（クラブ・サークル等）への支援」についての回答（99件）では、活動再開を求める声が最も多かった（25件、全ラベル数の25％）。具体的には「対面での活動をもう少し可能にしてほしい」（医学部・５年）、「感染対策を徹底したうえでの課外活動時間の確保」（文学部・３年）といった回答があった。その次に、制限の緩和、サークル・部活に対する経済的支援、活動場所の確保、感染対策、新歓活動の支援を求める声が多かった（付表９を参照）。

【悩み相談の充実の支援】「悩み相談の充実の支援」についての回答（37件）を見ると、情報提供・周知を希望する声が多かった（６件、全ラベル数の16％）。具体的には、「もっとそのような対応をしているところの情報を周知する」（理学部・１年）、「悩み相談場所と方法を周知した方がいい」（文学部・４年）などの意見があった。その次に、メール・チャット相談、相談室の設置、電話相談、メンタルヘルスチェック、就職活動の支援、相談窓口の増員を希望する声があった（付表10を参照）。

【その他の意見・要望】「その他の意見・要望」についての回答（89件）では、遠隔授業を希望する声が多かった（13件、全ラベル数の15%）。具体的には「このまま無理に対面にする必要はないと感じる。実習などの科目以外は今まで通りオンラインにするべきだ」（理学部・２年）のような意見があり、また「遠隔授業のおかげで大学に行く一週間あたりの日数が減りました。よって交通費および移動時間が節約でき、また学習のペースもある程度、自分で調整できるようになり、むしろ有意義な１年を過ごせたと思います」（理学部・１年）といった遠隔授業を肯定している回答があった。ほかに、感染対策や選択できる授業形態を求める声、情報提供への希望、対面授業を希望する声、経済的支援（授業料の減額を含む）を求める回答があった（付表11を参照）。

【学生支援についてまとめ】全体的に、２月学生向けアンケートの記述回答では経済的な不安と経済的支援を求める声に関する回答が多く、学生が経済面で悩んでいたことがうかがえる。求める対策としては、給付金や給付型奨学金の設立、授業料の減額、遠隔授業で必要な機材の購入補助などが挙げられていた。また、感染への不安に関する回答も多く見られており、感染対策を徹底した上で対面授業を実施してほしいといった要望と、感染を避けるために遠隔授業の提供（もしくは遠隔授業を選択できる授業システム）に関する要望があった。学生が自身の学修や健康状況に合わせて授業形態を選べる体制が整えば、学生の負担を軽減できたと考えられる。

３.７．その他の意見・要望について（９月調査）

最後に、９月の調査の問14「その他の意見・要望」について学生から得た記述回答（112件）の内容を取り上げる（付表12を参照）。全体的には、遠隔授業に関するものが最も多く、その次に授業形態全般、対面授業、課外活動、感染対策などに関するものが見られる。遠隔授業関連の回答（31件）に関しては、遠隔授業を希望する声が19件（61%）あった。特に、遠隔授業については、「遠隔の方が動画の見返しができてテスト対策もしやすい」（工学部・３年）、「自分のペースで学習を進めたり、何度も説明を聞いたりすることができるので、学ぶ意欲がある人にとっては遠隔が望ましい」（生活科学部・１年）、遠方出身や子育て中の学生が受けやすいことなど、様々な利点が挙げられている。ただ、機材や回線のトラブルに言及した回答もあり、Zoomでの双方向の授業はデータ通信料がかかることが懸念される声があった。また、遠隔授業では一方通行にならないよう、グループワークを行ってほしいという要望もあった。

また、授業形態全般について言及した回答（22件）には、対面授業か遠隔授業かの切り替えや、同日に形態が異なる授業を履修するトラブルについて言及したものや、授業形態を統一してほしい、もしくは対面か遠隔授業を選択できるような授業形態を推奨してほしいという要望が寄せられていた。

一方、対面授業関連の回答（９件）には、「対面授業希望」の回答４件があり、４件とも遠隔授業が中心だった学部の学生からの回答であった。また、対面授業に関する対応については、座席登録に関しては学生証で登録できる機械を設置することや、マスク着用を前提にしてアクリル板を取り除くことを希望する声があった。

全体的には、２月の調査ほど経済的な不安に関する回答は多くないが、授業形態に関する悩み・不安や希望に関する記述は多かった。遠隔授業を希望する声と、対面授業の再開を希望する声はそれぞれ一定数あった。

４．総合考察

４.１．調査結果のまとめ

コロナ禍による遠隔授業本格導入から１年半が経ち、後期からの対面授業の再開が見込まれつつあった中で行われた９月調査の結果を見ると、当時の２年生（入学と同時に遠隔授業が開始され、初年次は全面的に遠隔授業であった学年）と１年生（遠隔授業開始当時は高校生）、および３年生以上の学生で、学生生活に対して感じていた不安等に大きな違いがあったと言える。特に２年生は不安や悩みが大きく、特に就職や進学に対する不安は増大していた。それに対して１年生は、友人関係を築きづらいことや課外活動が行えないことを除くと不安や悩みは少なく、対面授業への不安もあまり見られなかった。また３年生以上では、学修活動

も含めて学生生活への全般的な不安や悩みは２年生に比べると高くないものの、経済的状況や課外活動ができないことについての不安・悩みを高く評定する傾向があった。

不安や悩みの内容をより詳しく見るために自由記述結果を振り返ると、全体的に感染に対する不安は大きく、そのためか対面授業再開への不安も多めに記述されていた。当時は大学が遠隔授業を続けることに対して、政治家などからも批判があったが、少なくとも本調査データでは（遠隔授業の充実を求める声はあっても）「遠隔授業を止めてほしい」という声は多くなく、むしろ遠隔授業の継続または遠隔受講の選択を認めることを望む記述が多めであった。

他方、コロナ禍による変化や困難に関しては、課外活動ができないことと収入の減少に関する記述が多めであり、また大学に求めたい事柄は経済的支援が多かった。また、課外活動の再開希望も多かったが、これらの結果を総合すると、「大学教育の場のあり方」として、感染対策と収入減対策以外で当時の学生達が求めていたこと（手に入らなくて苦しんでいたこと）は、主には学生同士を中心とする人との交流であったと言えるように思われる。

なお授業について、保護者は学生よりも対面を強く望んだり、遠隔授業では双方向授業を望んだりしていた。この結果の背景は様々だろうが、「人との交流があってこその大学生活」と保護者が考えていた可能性もある。

４.２．大学教育研究への示唆

本報告全体を振り返ると、コロナ禍において学生達は、学生同士を中心とする人との交流の少なさに苦しみつつ、同時に交流がもたらす感染を恐れるという、引き裂かれた状態にあったことが伺える。関連する調査結果として、2021年度末に大学教育研究センターが実施した「大阪市立大学学士課程学生調査」で、遠隔授業の３類型（動画無オンデマンド、動画オンデマンド、双方向）のいずれの形式でも、担当教員とのコミュニケーションに比して、学生同士のコミュニケーションはとりづらいと、学生達が感じていたことが明らかになっている（高等教育研究開発センター, 2023, p11）。

学生同士の交流・コミュニケーションの増加と感染リスクの拡大は不可分である中、本報告で示されてきた学生の意識や考えは、大学という組織が青年期の学生たちに対して果たす役割についての示唆を含んでいるように思われる。それは、大学に集う人同士（学生同士や学生と教職員など）の関係性が、開かれた形で形成されていく可能性を有する場としての機能と言えるのではないだろうか。

Gergan & Gill (2020/2023)は教育は関係のプロセスであるとして、学習者が教師や仲間と互いに「変幻自在的存在（p.37）」として出会い、「生成的関係（p.41）」を構築していくことを重視している。このような教育プロセスは、教師等が設定した学修目標への到達に限定されない活動であり、それが実現していくためには学習者が、時には学修目標からも解き放たれて、自由にあることのできる場所が必要なのではないだろうか。このことは、子ども・若者は、知識やスキルの獲得ではなく「『関係や場』に媒介されて育つ（p.42）」ことを明らかにしてきたユースワーク研究の知見とも通じるものがある（平塚, 2023）。もちろん大学には、正課のカリキュラムや学位授与の要件が存在するし、そこに大学の意義もある。しかし同時に、正課での学びと育ちが十全なものになるために、課外活動に代表されるような、学生の興味関心から始まるインフォーマルな学びと交流の場が不可欠なのではないかと思われる。近年は日本でも、大学の設置基準等の規制緩和が進む中、学生が自由に活動できる空間の確保が難しくなるような事例も散見される（西垣他, 2023）が、「対面授業への復帰」だけが重要なのではなく、「課外活動等を含む『学生生活』を、感染対策や経済支援などを得て、安心・安全な形で送りたい」というコロナ禍当時の学生達の声を、改めて確認しておきたい。

引用文献

Gergen, K.J, & Gill, S.R. 2020/2023『何のためのテストか：評価で変わる学校と学び』（東村知子・鮫島輝美訳）ナカニシヤ（“Beyond the Tyranny of Testing: Relational Evaluation in Education”, Oxford University Press.）

平塚眞樹 2023『ユースワークとしての若者支援：場をつくる・場を描く』，大月書店

高等教育研究開発センター　2023『大阪市立大学大学生調査報告書（2021年度実施）』
西垣順子・木原彩・楠美真涼・田中真音・松原和花・中山弘之 2023「学び・大学・社会に対する学生の要求・運動・表現と青年期の発達保障：学ぶ権利の実質を保障しうる大学評価のあり方を探る〈3〉」,『現代社会と大学評価』第19号, pp.55-64.

付記

１．本研究の実施にあたり、科学研究費補助金（22K02721）の助成を受けた。

２．本稿の作成に当たり、まずは第２著者と第３著者がデータの全体像の把握・整理を行った上で、第３著者が数値データの整理・検定・分析を行い、第２著者が自由記述データの整理・分析を行い、それぞれが本稿の該当箇所を執筆した。第２著者と第３著者によるこれらの作業を踏まえた上で、第１著者が改めて論点を整理し、第１節、第２節および第４節を執筆した。その上で、著者全員で本稿全体の確認や修正を行った。

【付表】

付表１　悩み・不安に関するラベル名と該当する記述の数・割合

ラベル	個数	割合
1. 感染への不安	42	26%
2. 授業形態	32	20%
3. 人との交流・コミュニケーション	17	10%
4. メンタル	12	7%
5. 進学	8	5%
6. 経済的な不安	8	5%
7. 課外活動	7	4%
8. 大学の対応	6	4%
9. ワクチン接種	6	4%
10. 研究活動	5	3%
11. 就職活動	4	2%
12. 実習	2	1%
13. 大学施設の利用	2	1%
14. 帰省・帰国	2	1%
15. 外出制限	1	1%
16. マスク着用	1	1%
17. 遠隔授業の機材トラブル	1	1%
18. 学費	1	1%
19. 進路	1	1%
20. 留学	1	1%
21. 住居	1	1%
22. 感染予防に対する意識	1	1%
23.「なし」といった旨の回答	24	15%
24. その他	2	1%
合　計	185	

※９月調査の問４「悩み・不安、困っている事があれば具体的に記述してください」の回答を集計した結果である。

付表２　一年間のコロナ禍における悩み・不安に関するラベル名と該当する記述の数・割合

ラベル	個数	割合
1. 就職活動	33	19%
2. 授業形式	25	14%
3. 感染への不安	18	10%
4. 課外活動	17	10%
5. 経済的な不安（アルバイトを含む）	17	10%
6. 学業	13	7%
7. 人との交流・コミュニケーション	12	7%
8. メンタル	10	6%
9. 健康	10	6%
10. 大学の対応	7	4%
11. 感染予防に対する意識	6	3%
12. 学費（授業料、施設使用料）	5	3%
13. 登校・大学施設の利用	5	3%
14. 住居	2	1%
15. ワクチン接種	1	1%
16. 進路	1	1%
17. キャリア	1	1%
18. 機材	1	1%
19. その他	8	4%
20.「なし」といった旨の回答	11	6%
合　計	203	

※２月調査の問８「質問７の他に、悩み・不安、困っている事があれば具体的に記述してください」に対する回答を集計した結果である。

付表３　感染対策に関する要望ラベルと該当する記述の数・割合

ラベル	個数	割合
1. 消毒	28	15%
2. 間隔	21	12%
3. 教室の人数制限	20	11%
4. 換気	19	10%
5. 飲食	17	9%
6. 授業形態	15	8%
7. マスクの着用	15	8%
8. 学生の意識	14	8%
9. 対策の徹底	13	7%
10. 検温	7	4%
11. 仕切り	8	4%
12. 対策の継続	5	3%
13. 教員の感染対策	3	2%
14. ワクチン接種	3	2%
15. 学生同士の会話	2	1%
16. 通学	2	1%
17. PCR検査	1	1%
18. 移動	1	1%
19. 学生の管理	1	1%
20. 手洗い	1	1%
21. その他	2	1%
22.「なし」といった旨の回答	2	1%
合　計	198	

※９月調査の問12「前の質問「対面授業において望むこと」で「②感染防止対策を万全にしてほしい」を選択された方におたずねします。現在足りない点は何だと思われますか」の回答を集計した結果である。

付表４　緊急事態宣言後の生活の変化に関するラベル名と該当する記述の数・割合

ラベル	個数	割合
1. 課外活動	173	35%
2. 外出・行動制限	139	28%
3. 授業	108	22%
4. アルバイト・経済的なこと	100	20%
5. 人との交流・コミュニケーション	39	8%
6. 登校頻度・大学施設の利用	30	6%
7. 感染対策	15	3%
8. メンタル	15	3%
9. 健康	13	3%
10. 外食	13	3%
11. 生活リズム	6	1%
12. 住居	4	1%
13. 就職活動	3	1%
14. 行事への参加	3	1%
15. 実習	3	1%
16. 時間の活用	2	0%
17. 仕事	1	0%
18.「なし」といった旨の回答	3	1%
19. その他	6	1%
合　計	676	

※２月調査の問４「変化があった場合、具体的に記述してください」に対する回答を集計した結果である。

付表５　緊急事態宣言後の悩み・不安に関するラベル名と該当する記述の数・割合

ラベル	個数	割合
1. 経済的な不安（アルバイトを含む）	84	23%
2. 感染への不安	72	19%
3. 授業形式	45	12%
4. 課外活動	43	12%
5. 人との交流・コミュニケーション	37	10%
6. 就職活動	30	8%
7. 外出制限	20	5%
8. メンタル	18	5%
9. 研究活動	12	3%
10. 大学の対応	10	3%
11. 学業全般	9	2%
12. 実習	4	1%
13. 学修に関する相談	4	1%
14. 大学に行けない	4	1%
15. 先が見えない不安	4	1%
16. 学費（授業料・施設使用料を含む）	4	1%
17. 大学院入学試験	3	1%
18. ワクチン接種	2	1%
19. 大学施設の利用	2	1%
20. 学生生活	2	1%
21. 帰省・帰国	2	1%
22. 大学の行事	2	1%
23. 留学	2	1%
24. 健康（生活リズムなど）	1	0%
25. 学長の対応	1	0%
26. 交通	1	0%
27. その他	5	1%
28.「なし」といった旨の回答	9	2%
合　計	432	

※２月調査の問６「現在不安に思う事や、困っている事などを具体的に記述してください」に対する回答を集計した結果である。

付表６　学生生活への支援に関するラベル名と該当する記述の数・割合

ラベル	個数	割合
1. 経済的支援（学費・授業料の減額を含む）	89	55%
2. 食事・食料品の提供	14	9%
3. 遠隔授業希望	9	6%
4. 学生同士の交流	8	5%
5. 情報提供	6	4%
6. 課外活動の再開	5	3%
7. 大学生活全般の支援	5	3%
8. 手続きの簡素化	4	2%
9. 対面授業希望	3	2%
10. 学生との対話	3	2%
11. 授業形態の選択	3	2%
12. 就職活動の支援	3	2%
13. 学修支援	2	1%
14. 遠隔授業、ネットワーク環境の改善	2	1%
15. 大学施設の利用	2	1%
16. メンタル	1	1%
17. 教員の対応	1	1%
18. 通学時間帯の配慮	1	1%
19. その他	5	3%
20.「なし」といった旨の回答	2	1%
合　計	168	

※２月調査の問16「「学生生活への支援」で具体的に考えられるもの」に対する回答を集計した結果である。

付表７　安心して学内で学べる施設・環境の支援に関するラベル名と該当する記述の数・割合

ラベル	個数	割合
1. 感染対策	58	46%
2. 学修スペースの確保	22	18%
3. 遠隔授業の提供	14	11%
4. 対面授業の提供	5	4%
5. 飲食スペースの確保	4	3%
6. 情報提供・周知	3	2%
7. 授業形態の選択	3	2%
8. 対面授業の中止	2	2%
9. 入退室管理	2	2%
10. 研究環境の整備	2	2%
11. 授業料の減額・免除	1	1%
12. 通学時間帯の配慮	1	1%
13. ネットワーク環境の整備	1	1%
14. 郵送での図書の貸出	1	1%
15. 授業の質の担保	1	1%
16. その他	8	6%
17.「なし」といった旨の回答	5	4%
合　計	133	

※２月調査の問17「「安心して学内で学べる施設・環境の支援」で具体的に考えられるもの」に対する回答を集計した結果である。

付表８　授業・学修への支援に関するラベル名と該当する記述の数・割合

ラベル	個数	割合
1. 経済的支援	18	15%
2. 遠隔授業希望	16	13%
3. 遠隔授業の改善	16	13%
4. 対面授業希望	10	8%
5. 学修支援	9	8%
6. 授業形態の選択	9	8%
7. 大学施設の利用	6	5%
8. 教員の対応	5	4%
9. 受講環境の改善	4	3%
10. 感染対策	3	3%
11. 情報提供	3	3%
12. 研究支援	2	2%
13. 授業の録画	2	2%
14. 授業資料の提供	2	2%
15. ネットワーク環境の改善	1	1%
16. 英語の学修	1	1%
17. 学外での研修	1	1%
18. 大学院進学支援	1	1%
19. 授業内容の見直し	1	1%
20. 学生との対話	1	1%
21. 課題分量の配慮	1	1%
22. その他	6	5%
23.「なし」といった旨の回答	3	3%
合　計	121	

※２月調査の問18「「授業・学修への支援」で具体的に考えられるもの」に対する回答を集計した結果である。

付表９　課外活動への支援に関するラベル名と該当する記述の数・割合

ラベル	個数	割合
1. 活動再開	25	25%
2. 制限の緩和	19	19%
3. 経済的支援	12	12%
4. 活動場所の確保	9	9%
5. 感染対策	8	8%
6. 新歓活動の支援	6	6%
7. 情報提供・指針の開示	4	4%
8. 規制の強化	4	4%
9. 学生同士の交流	2	2%
10. 用具の提供	1	1%
11. 手続きの簡素化	1	1%
12. 全体的支援	1	1%
13. その他	5	5%
14.「なし」といった旨の回答	6	6%
合　計	103	

※２月調査の問19「課外活動（クラブ・サークル等）への支援」で具体的に考えられるものに対する回答を集計した結果である。

付表10　悩み相談の充実の支援に関するラベル名と該当する記述の数・割合

ラベル	個数	割合
1. 情報提供・周知	6	16%
2. メール・チャット相談	4	11%
3. 相談室の設置	3	8%
4. 電話相談	2	5%
5. メンタルヘルスチェック	2	5%
6. 就職活動の支援	2	5%
7. 相談窓口の増員	2	5%
8. アンケート調査	1	3%
9. 下宿生のサポート	1	3%
10. カウンセリングの提供	1	3%
11. オンライン相談	1	3%
12. その他	6	16%
13. なし	8	22%
合　計	39	

※２月調査の問20「「悩み相談の充実の支援」で具体的に考えられるもの」に対する回答を集計した結果である。

付表11　その他の意見・要望に関するラベル名と該当する記述の数・割合

ラベル	個数	割合
1. 遠隔授業希望	13	15%
2. 感染対策	11	12%
3. 授業形態の選択	9	10%
4. 情報提供	7	8%
5. 対面授業希望	5	6%
6. 経済的支援（授業料の減額を含む）	5	6%
7. 課外活動	4	4%
8. 学生への配慮、支援	4	4%
9. 学長のメッセージへの不満	2	2%
10. 登校希望	2	2%
11. 研究活動	2	2%
12. 遠隔授業の改善	2	2%
13. メンタル支援	2	2%
14. オンライン活動の良さ	1	1%
15. 制限の緩和	1	1%
16. 授業の質の改善	1	1%
17. 規制の強化	1	1%
18. 課題の分量の配慮	1	1%
19. 行事の再開	1	1%
20. 対面授業への否定	1	1%
21. 就職活動の支援	1	1%
22. その他	10	11%
23.「なし」といった旨の回答	7	8%
合　計	93	

※２月調査の問22「その他、ご意見ご要望などがあれば、自由に記述してください」に対する回答を集計した結果である。

付表12　その他の意見・要望に関するラベル名と該当する記述の数・割合

ラベル	個数	割合
1. 遠隔授業関連	31	28%
2. 授業形態全般	22	20%
3. 対面授業関連	9	8%
4. 課外活動	8	7%
5. 感染対策	7	6%
6. WebClass関連の対応	4	4%
7. ワクチン接種に関する対応	5	4%
8. 大学施設の利用	3	3%
9. 情報、周知	3	3%
10. 学費関連（授業料、施設使用料など）	2	2%
11. メンタルケア	1	1%
12. 就活支援	1	1%
13. 経済的支援	1	1%
14. 健康診断	1	1%
15. その他	8	7%
16.「特になし」といった旨の回答	14	13%
合　計	120	

※９月調査の問14「その他、ご意見ご要望などがあれば、自由に記述してください」の回答を集計した結果である。